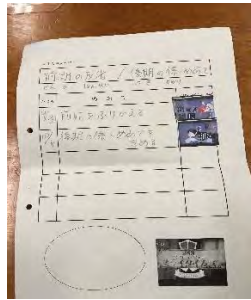
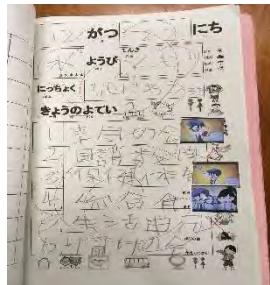


| | | |
|--|--------------------------|--------------------|
| 【教材・教具名】 手順表示カード/ブラックボックス | 【教科・領域】 生活単元学習 | 【対象】 小学部 |
| 【対象児童生徒の実態】 <ul style="list-style-type: none"> ・興味関心が高い事柄ほどに注目し、集中すると意欲的に取り組むことができる。 ・初めてのことや見通しが持ちにくいことでは消極的になりがちである。 | | |
| 【ねらい】 <ul style="list-style-type: none"> ・活動の見通しを持てるように、授業の流れを視覚的な情報で示すようにする。 ・栽培対象であるとうもろこし特有の外観や触感に興味を持ち、生長に伴う観察や記録をすること、生育環境を調整すること、学習活動に主体的に取り組むことができる。 <p style="text-align: right;">(生活科：自然-動物の飼育・植物の栽培)</p> | | |
| ○教材・教具の使い方 | | |
| [手順表示カード] | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「とうもろこしを育てよう」での種まき、風車づくり、収穫、とうもろこしとんぼ作り、調理における、活動の流れと手順を提示する。また、見やすさや扱いやすさ A5・A4 程度の大きさを印刷する。 ・机上据置、フラッシュカード提示、TV 画面での表示など、目的に応じて提示方法を変える。 | | |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>① 3こ とる</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>② たねを まく</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>③ つちを かける</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>こうたい</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>①とうもろこしをはずす</p> </div> </div> | | |
| [ブラックボックス] | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学習対象の野菜を学習の導入で触れる機会を設け、とうもろこしへの意識付けをする。 ・触覚を刺激し、視覚情報と触覚情報を相関させる感覚を養うことで、興味関心の広がりを促す。 ・ゲーム感覚で活動することで、楽しさを味わい学習への内発的動機付けをする。 | | |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">     </div> | | |
| ○工夫点 | | |
| 手順カード | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・本人が自由に触れるようにラミネート加工し、不意の力に耐えられるようにする。 ・MS-PowerPoint を使うことで、複数の提示方法 (TV・カード化など)、絵や文字情報の調整など児童の特性や状態に応じて対応できるようにした。文字等は黒字に白抜き文字で明瞭さを高めた。 | | |
| ブラックボックス | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・様々な感触に触れさせ、感覚刺激を豊かにする。 ・両手を使って触れるように、十分な開口部の大きさで両手に対応する2つ穴を作った。 ・繰り返しの使用や本人の不意の力に耐えるように、厚い段ボール紙などの素材を調整する。 ・感触を味わい、イメージを広げさせるために、段階的に内容物が見えないようにする。 ・最初は傍観者に内容物が見えるようにし、何をしているのかがわかりやすいようにした。活動を繰り返すごとに、内容物が見えにくい箱へと変化させた。菊ゴム (排水溝ゴム) を用いることで、手は入れやすく、中は見えにくい箱になった。 | | |
| 【効果 (○)・改善点 (●)】 | | |
| ○手順カードへ視線を向けることが多くなり、提示された教材に手を伸ばして操作するようになった。 | | |
| ○感触を頼りに、提示した具体物を選び取ることができるようになった。 | | |
| ○日常生活において、ポケットの中のハンカチを目視せずに取り出すことができた。 | | |
| ○収穫したとうもろこしの実をよく見て、一粒ずつ外すことができた。 | | |
| ●側面への穴を追加し、子どもの上肢の幅広い動きに対応、また、二人同時に使えるように改良した。 | | |
| ●目的や用途に応じて、大きさ、穴の数が異なるブラックボックスを複数用意した。 | | |

| | | |
|---|------------------------------------|--------------------|
| 【教材・教具名】 がんばったねシール 評価シート | 【教科・領域】 生活単元学習 学校生活全般 | 【対象】 中学部 |
| 【対象生徒の実態】 <ul style="list-style-type: none"> ・手先が器用で作業能力的には高い。 ・気持ちが安定しているときには、できることが多い。反面、課題が難しかったり、自分の思い通りにならなかったりすると、大きな声で騒いで投げ出してしまうことがある。 | | |
| 【ねらい】 <ul style="list-style-type: none"> ・どんな学習活動にも意欲的に取り組むことができるようにする。 ・一時間ごとの学習にめあてをもつことができる。 <p style="text-align: right;">（生活科：日課・予定— (2)）</p> | | |
| 【教材・教具の使い方】 <ul style="list-style-type: none"> ・生活単元学習の計画表に日付・めあてを記入して、学習に取り組む →授業の終了時に教師と一緒に振り返り、評価する =できたときには、がんばったねシールを貼る。 <div style="text-align: right;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の学習予定では、時間割のところにがんばったねシールを貼る。授業終了時に教師と一緒に評価をし、できたときにはシールを貼るようにした。できなかった時には、理由を話して△や×を付けてあげながら、「今度はシールを貼れるように～しようね」と具体的に話すようにした。 【工夫点】 <ul style="list-style-type: none"> ・生活単元学習の計画に沿って記入できる評価カードを作成することで、生徒が見通しやめあてをもって学習に取り組めるようにする。 ・がんばったねシールを貼ることで、達成感を味わわせるようにする <ul style="list-style-type: none"> →シールは本人の好きなキャラクターを使用することで、ごほうびとしての価値を高めるようにする。 | | |
| 【効果 (○)・改善点 (●)】 ○生活単元に限らず、毎日の生活でも活用するようになったところ、学習だけでなく生活面でもめあてをもって頑張るようになってきた。 ●評価が△については、×と同等ではなく、シールを半分にして貼らせたかったが、好きなキャラクターのため、シールを切ることに本人が納得できなかった。△の評価に値するシールの工夫をすることで、×との違いが明確になるのではないか。 | | |

| | | |
|--|---------------------------------------|--------------------|
| 【教材・教具名】 塗り絵制作キット (男の子と女の子) | 【教科・領域】 生活単元学習 「掲示物を作ろう」 | 【対象】 高等部 |
|--|---------------------------------------|--------------------|

【対象生徒の実態】

- ・一人で色を塗ったり，はさみで切ったりすることはできるが，色を塗る箇所やはさみで切る箇所を分らないと，迷って活動できず，情緒を乱すことがある。

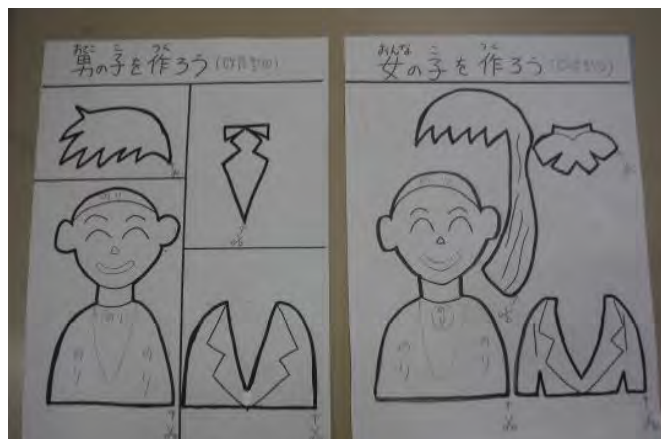
【ねらい】

- ・見本を参考にしながら，一人で色を塗ったり，はさみで切ったり，のりで貼ったりする活動を行うことができる。
- ・活動に見通しをもち，落ち着いて取り組むことができる。

(図工・美術科：表現(1)－2)

○教材・教具の使い方

- ・男の子と女の子の顔，髪，服，ネクタイ(リボン)のパーツを描いた用紙を用意し，それに色を塗って，はさみで切って，のりで貼って組み合わせて，男の子と女の子を制作する。



① 塗る活動

- ・塗り方シートを用意し，何色を塗ればよいかを示す。



② 切る活動

- ・切り方シートを用意し，はさみでどんな形に切れればよいかを示す。



③ 貼る活動

- ・貼り方シートを用意し，どのように貼って完成させるかを示す。



○工夫点

- ・「塗り方」「切り方」「貼り方」それぞれの見本シートを用意し，それぞれの活動の時に参考にできるようにした。
- ・はさみで切る線を太くしたり，はさみで切り始める目印を付けたり，のりを塗る箇所を示したりすることで切る場所やのりを塗る箇所をわかりやすいようにした。

○効果・改善点

- ・はさみで切る場所やのりを塗る場所を示すことで，自主的に制作を進められるようになった。
- ・活動補助具を参考にしながら，落ち着いて活動する姿が見られた。

| | | |
|---|--------------------------|--------------------|
| 【教材・教具名】 スケジュールカード | 【教科・領域】 生活単元学習 | 【対象】 小学部 |
| 【対象児童の実態】 <ul style="list-style-type: none"> ・友達や先生が映っている写真を見るのが好き。 ・人が多い場所や初めての場所が苦手な環境に慣れるまで時間がかかる。不安により体に力が入り体全体で拒否を示すことがある。 | | |
| 【ねらい】 <ul style="list-style-type: none"> ・カードを使用することで、初めての場所や活動への見通しを持ち不安感を軽減して、落ち着いて学習に参加できる時間を増やす。 <p style="text-align: center;">（生活科 日課・予定 1 段階 役割—集団の参加や集団内での役割 1 段階）</p> | | |
| 【教材・教具の使い方】 <ul style="list-style-type: none"> ・校外学習時や事前学習の際に、活動に対して見通しを持つために使用。 ・写真カードを見て、誰とどこで活動するのか、どんな場所なのかを知る。 ・カードはめくり式。次に行く活動のみを提示した。 ・校外学習当日は、支援者がカードを持ち、活動が始まる前にカードを提示し本児に説明した。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="204 925 539 987" style="border: 1px solid orange; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">めくり式スケジュールカード</div> <div data-bbox="204 999 539 1330">  </div> <div data-bbox="587 981 1177 1279">  </div> <div data-bbox="1198 954 1437 1227" style="border: 1px solid orange; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>家庭でも使用できるようにした。通院時に誰の車で誰が乗っていくのかを示したカード。顔写真は取り外し可能。</p> </div> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div> | | |
| 【工夫点】 <ul style="list-style-type: none"> ・写真はできるだけ本番に近いもの（昨年度実施した写真等）を使用。 ・誰と活動するのかがわかるように支援者の顔写真を貼れるようにした。 ・顔写真は何度も使えるように粘着ピンという両面シールを使用した。 | | |
| 【効果（○）・改善点（●）】 <ul style="list-style-type: none"> ○自分からカードを見たいと要求するようになった。 ○自分がすることだとわかるように、対象児の顔写真も貼ったことで、より興味を持ってみるようになった。次はこれだねとカードを提示するとうなずく様子も見られた。 ●カードをポケットから出すため、出し入れに時間を取られることがあった。→リードストラップ等を使用して必要な時にすぐ出せるようにする。 ●活動時間が長いとカードの枚数が多くなりがちになるため、口頭の説明で伝わるものは排除し、カードの枚数を必要最小限にしていく。 | | |